



# クラシソコアゲ応援団! RENGO キャンペーン 全道キャラバン通信

NO.43 2017.5.12 発行責任者 連合北海道組織労働局

「STOP長時間労働」・「働き方」を考える

## 「働き方改革シンポジウム」を開催

連合北海道は全道キャラバンの出発日の5月10日、ホテルロイトン札幌において「働き方改革シンポジウム」を開催、組合員・市民・民進党議員ら200名が参加した。日本労働弁護団北海道ブロック事務局長の上田総理弁護士の基調講演の後、連合北海道出村会長、上田弁護士、北海道中小企業家同友会の宇佐美隆札幌支部長の3者で鼎談を行い、「働き方改革」について問題点、今後の方向性等について理解を深めた。

「スタート台に立ったばかり」(出村会長)

連合北海道の出村会長は挨拶の中で、政府が進める働き方改革には長時間労働の是正や同一労働同一賃金など9つのテーマがあるが、ベルコ事件のように違法な働き方も課題となっている。それぞれの職場に多様な実態、課題があり、連合としても「働き方改革」は問題解決に向けてのスタート台に立ったばかりという認識であり、今後、働く者の立場に立った改革としていく必要があると訴えた。



「多様な働き方など労働者保護切捨てに注意を」(上田弁護士)



基調講演で上田弁護士は、長時間労働の是正に向けて罰則付きの上限規制導入に賛成しつつも、現状でも100時間超えの労働相談が寄せられていることに触れ、労災認定基準に相当する上限時間は依然として過労死の危険があり、「上限規制は生かしつつも、労働者の健康を守る安全配慮義務に則した時間外労働のあり方を議論していくことが大切」と現場からの運動、一つひとつの取り組みを大切にして職場の改善につなげることが重要と提起した。また、高度プロフェッショナル制度の導入や裁量労働制の大幅な拡大について、現在でも多数の裁判が提訴されており範囲の無原則な拡大や長時間労働の温床になると警鐘を鳴らすとともに、欧州で一般的になっているインターバル規制の早期導入を訴えた。さらに、ITやAIの進展にともなって、「多様な働き方、雇用によらない自由な働き方」が叫ばれているが、業務委託の多用など労働者保護を切り捨て労働法の

必要ない働き方の社会を作りかねないとして注意を呼びかけた。

「社員はパートナー、人間尊重の経営を」(宇佐美支部長)

鼎談で、出村会長は、現状で36協定が4割の職場でしか締結されていないことや時間外手当が生活給となっている実態など、「影の部分」について各々の職場で問題点を洗い出して解決策を見出していくことが重要であると述べた。また、宇佐美支部長は、同友会の理念は人間



尊重の経営、社員の主体性尊重、地域との関わり重視、大企業に依存しないことだとして、社員とはパートナーであって労働条件の整備が大前提であること、労働条件の明示と納得性を大事にしていると述べるとともに、来年度以降は高卒者が急激に減少していくことから人材確保のためにも労働条件の整備・改善は不可欠と強調した。

本日(12日)は、18時から小樽駅前にて後志集会が開催される。